

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容 .....	2
イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性 .....	2
ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容 .....	4
（ア）教育課程の変更内容.....	5
（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容 .....	7
（ウ）教員組織の変更内容.....	8
（エ）大学全体の施設・設備の変更内容.....	9

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

広島修道大学学則第 2 条（学部学科の組織）の変更により人文学部に社会学科を設置する。広島修道大学学則第 3 条（入学定員及び収容定員）に定める人文学部人間関係学科について、次表のとおり変更する。

広島修道大学学則新旧対照表（抜粋）

新				旧				
(入学定員及び収容定員)				(入学定員及び収容定員)				
第 3 条 本学の学部別及び学科別の入学定員並びに収容定員は、次のとおりとする。				第 3 条 本学の学部別、学科別及び専攻別の入学定員並びに収容定員は、次のとおりとする。				
学部	学科	入学定員	収容定員	学部	学科	専攻等	入学定員	収容定員
商学部	商学科	155名	620名	商学部	商学科		155名	620名
	経営学科	140名	560名		経営学科			
経済科学部	現代経済学科	115名	460名	経済科学部	現代経済学科		115名	460名
	経済情報学科	115名	460名		経済情報学科			
人文学部	社会学科	95名	380名	人文学部	人間関係学科	社会学専攻	60名	240名
	教育学科	100名	400名					
	英語英文学科	100名	400名					
法学部	法律学科	195名	780名	法学部	法律学科		195名	780名
人間環境学部	人間環境学科	115名	460名	人間環境学部	人間環境学科		115名	460名
健康科学部	心理学科	80名	320名	健康科学部	心理学科		80名	320名
	健康栄養学科	80名	320名		健康栄養学科		80名	320名
国際コミュニティ学部	国際政治学科	75名	300名	国際コミュニティ学部	国際政治学科		75名	300名
	地域行政学科	75名	300名		地域行政学科		75名	300名
以下 略				以下 略				

第 634 回学園理事会（2022 年 11 月 28 日開催）資料より抜粋

### イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学人文学部は、昭和 48 年、英語英文学科と人間関係学科の 2 学科で開設した。人間関係学科は心理学、社会学、教育学の 3 専攻から成る学科としてスタートした。以来、本学の教育目標に基づいた教育を展開し、地域社会の多様な分野へ多くの人材を送り出してきた。平成 27 年に学校法人修道学園は、学校法人鈴峯学園と合併し、平成 28 年 4 月に人間関係学科教育学専攻を廃止し、その教員組織を移行・拡充して人文学部に教育学科として開設した。そして、平成 29 年 4 月に人間関係学科心理学専攻を廃止し、その教員組織を移行・拡

充し、健康科学部心理学科として開設した。その結果、平成 29 年 4 月より人間関係学科は社会学専攻のみとなり、一学科一専攻という組織の配置となっている。

人文学部人間関係学科社会学専攻は、これまで安定した志願者数及び多岐にわたる就職実績を維持している。今後もさらなる地域の要請に応えるため、専攻から学科とし、定員を 35 名増員する。併せて、入学定員・収容定員の適正な管理および少人数教育のさらなる充実のため、人文学部英語英文学科の定員を 10 名減員し、大学全体の入学定員 1,440 名、収容定員 5,760 名に変更する。

中央教育審議会の平成 30 年答申『2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン』[以下『中教審』]によれば、21 世紀型スキルや汎用的能力をめぐる OECD における議論「将来においても陳腐化しない普遍的なコンピテンシー」には、「①テクノロジーが急速かつ継続的に変化しており、これを使いこなすためには、一回修得すれば終わりというものではなく、変化への適応力が必要となること、②社会は個人間の相互依存を深めつつ、より複雑化・個別化していることから、自らとは異なる文化等を持った他者との接触が増大すること、③グローバル리즘は新しい形の相互依存を創出しており、人間の行動は、個人が属する地域や国をはるかに超え、例えば経済競争や環境問題に左右されること」が背景にあると指摘され、「予測不可能な時代の到来を見据えた場合」、「思考力、判断力、表現力の基盤の上に、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材」「21 世紀型市民」が多く誕生し、活躍することが必要だとされている。

社会学は、西欧を中心とした近代化への移行期＝大きな社会変動の転換期に成立した学問である。既存の社会システム・規範・秩序が崩壊し、近代社会が理想とした「人間の平等と自由」を達成するための「個人と社会」の関係が混迷する中で、対立や矛盾が顕わとなり、社会の不確実性に直面した人々が抱える社会不安を背景として、次から次へと生起する新たな問題の解決を探るといふ問題意識を背負って、社会学は登場した。これまで社会学は、それぞれ生活世界を有する主体としての個々人の意識・価値観や行為へと焦点を当てる一方で、個々に還元されない集合体としての組織・制度・システムや集団意識が織り成す「社会」「社会現象」を研究対象とする独自の学問体系を築き上げてきた。

現代社会は、西欧近代化への移行期よりも大規模かつ急激な社会変動に直面している。世界経済のグローバル化による資源の争奪や貧富の格差の拡大、ジェノサイドや人権侵害、領土をめぐる国際的緊張の高まり、地球規模の自然環境の破壊や気候変動など、多くの課題に直面している。ジェンダーやセクシュアリティをめぐる差別、雇用の不安定化やメンタルヘルスなど、人々の生活世界に密接に関わる問題も、一国内にとどまることなく、グローバル社会と関連づけて考察すべき課題となっている。

とりわけ、Covid-19 Pandemic は、人類社会全体を巻き込み、イデオロギーや政治・経済体制の違いを超えて、各国家による対応が一斉に実施され、(感染者数や死者、ワクチンの確保から摂取率などを含めて)それぞれの国家政策がグローバルな規模で問われ、国民

国家の枠に囚われない連携をさぐることが重要な課題となっている。そして、グローバル化による急激な社会変動は、Covid-19 Pandemic によって、さらに急速になりつつある。また、近代社会が理想とした「平等と自由」は、格差の拡大とその顕在化、個人の自由制限をめぐって、新たな課題に直面している。

社会的現実を解明する社会学は、社会の変化に応じて生起する社会問題を認識・理解するだけでなく、社会問題の解決へ向けた制度設計を提示していく学問でもあり、「誰一人として取り残さない(leave no one behind)」という考え方の下、国連が提唱する持続可能な開発のための目標(SDGs)に掲げられている課題「人権の尊重、平等、豊かさを享受できる公正で恐怖と暴力のないインクルーシブ(包括的)な世界」「貧困と飢餓を終わらせ、ジェンダー平等を達成し、全ての人に健康的な生活の保証」「責任ある消費と生産など、地球環境が守られること」に対して、「自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより」「持続可能な社会を創造していくことを目指す」[『中教審』]学問である。近代化以降の人類にとって未曾有の転換期へ直面している現代社会において、社会の中に存在し、社会との関係の中で絶えず自らを更新し続けていく自己反省的な学問である社会学は、まさに「いま、ここ」で必要とされている。

社会学科を設置することによって、「社会現象を相対化し他者への寛容な態度を獲得するという特性をもつ」社会学を体系的に教育することを通じて、「現代社会に潜む差別や偏見、不公平を発見し、他者と連帯しながら足元から是正し、平和で民主的な社会を築いてゆく市民の形成に寄与」[日本学術会議・社会学委員会・社会学分野の参照基準検討分科会報告『大学教育の分野別質保証のための参照基準 社会学分野』平成 26(2014)年] (以下、『参照基準』) することは、人文学部の「現代社会の課題を発見・理解・解決する能力の育成、コミュニケーション能力の育成、そして情報リテラシーの修得を通して」「個性的、自律的な人間」を育成するというポリシーのもとで、本学の「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材」を育成するという理念を具現化できる。

#### ウ. 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

社会学科は、人間社会における問題を発見し、人々や文化の多様性を理解し、社会調査による実証的方法に基づいて論理的に思考し、問題を解決に導くために社会を構想し提言する能力を携えて、異なる価値観や文化・属性を人々と共存していくために多様な社会・職業領域で活躍し、社会と関わり続けていく人材を育成することを目的とする。

その際、社会学科の教育課程は以下のように整理できる。【資料 1】

- ①社会学科の主専攻科目は、一年次必修科目の「専門導入科目」から、専門教育へと繋げていく二年次必修科目、二年次生から四年次生までが学年を横断し複数履修できる「専門演習科目」及び四年次配当の必修科目「卒業研究」を学科教育の中心的な柱として構成している。
- ②社会学科の主専攻科目は、「人文学部総合科目」と「社会学専門科目」(「専門講義科目」「演習科目」「社会学情報処理科目」という三科目群に区分) からなり、そこに含まれる科

目が有機的に関連付けられて構成している。

③「専門講義科目」には、「理論・方法に関する科目」「社会の諸領域に関する科目」「社会構想に関する科目」「社会調査関連科目」を配置する。

④「演習科目」は、「専門演習科目」と「特殊演習科目」に区分する。

⑤「専門演習科目」は、「専門講義科目」に配置している「理論・方法に関する科目」と「社会の諸領域に関する科目」と連動している。これらの演習科目では、二年次より学生自身が自らの関心に合わせて複数履修することが可能であり、学年を横断して議論することにより社会学に関する専門的知識を深化させていく。学生自身の主体的な関心にもとづいて、学年の垣根を超えて複数の専門演習を履修可能となっていることから、演習授業が個々の担当教員の教育研究に閉塞されることを避け、学生が「何を学び、身に付けることができるのか」を主体的に意識することは可能となる。したがって、本演習科目は、「(学生) 自らの可能性を最大限に発揮するとともに、多様な価値観を持つ人材が協働して社会と世界に貢献していくため」の「知的共通基盤」となり、「学修者本意の多様性と柔軟性を持った高等教育」[『中教審』]を具現化できるものとなる。

⑥「特殊演習科目」は、「専門講義科目」に配置されている「社会構想に関する科目」と連動している。この「特殊演習科目」は、学生自身が社会への関わりと社会学的知識の応用を学ぶことを目的として、公共・民間で活躍・活動している人たちを兼任講師として実施する演習である。そうしたことから、「生まれ育った地域で、個人の価値観を尊重して生活し、その地域を豊かな者にしていくための継続的な営みができる」「地域創生を目指す社会」[『中教審』]の実現のために、社会学的応用力を養う演習科目となっている。

⑦「社会調査関連科目」は、社会学的社会調査の方法を体系的に修得することを目的としている。また、一般社団法人・社会調査協会が定める認定科目を配置し、「量的社会調査演習」「質的社会調査演習」と合わせて単位修得することによって、「社会調査士」資格を取得可能とする。

⑧「社会学情報処理科目」には、社会学を学ぶ上で必要とされる情報リテラシーや社会調査に必要とされる情報スキルを身につけるとともに、職業領域においても必要とされる情報処理スキルを修得するための科目を体系的に配置している。

⑨卒業研究は「社会学教育においてとくに重要な位置をしめる」[『参照基準』]という位置付けであり、社会学科では、社会学教育の集大成として、四年次必修科目として「卒業研究」を配置する。

## (ア) 教育課程の変更内容

### (1) 社会学基礎科目の充実化

社会学の独自性は、幅広い研究対象にあるだけでなく、それらの対象に関するものの見方・考え方、即ち研究視角にある。社会学の理論と方法を学修することを通じて、基本的な社会学的なもの見方・考え方を身につける。社会学科では、一年次に「社会学

研究入門Ⅰ」「社会学研究入門Ⅱ」「社会学概論」「社会学方法論」「現代社会学」「社会学基礎講座」を、二年次に「社会学研究法」と「社会学理論」を必修科目(合計 15 単位)として設定し、社会学の基本的な理論・方法を身につける。これらの科目のうち、専門導入科目に位置づく「社会学研究入門Ⅰ」「社会学研究入門Ⅱ」は、各 3 クラス開講することによって、ディスカッションとグループワークを含めた基礎演習的な役割を担う科目として設定する。

#### (2)変化する時代や社会に対応する社会学専門科目領域の拡大

社会学の研究対象は広く多岐に渡っており、人間の生の営みと社会のあり方にかかわるあらゆる社会現象を含んでいる。そのため、社会学は、これらの社会現象を人間個々の社会的行為や他者との間の相互行為、そして個人とより大きな社会・集団と関連づけられる社会関係のプロセスにおいて生成・変容し続けるものとしてとらえる。社会学を学ぶものには、多くの「社会の諸領域」に関する科目の学修により、関心の対象を広げていくことが求められる。そのため、社会学科では、学生自らの社会的関心を喚起することを目的とし、多彩な「社会の諸領域に関する科目」を選択科目として配置している。そして、学生には、「専門演習科目」との連動による学びの深化を期待する。

#### (3)社会構想にかかわる科目群の明確化

社会学を学ぶものには、社会に対する関わりの中で、問題を解決に導くための提言を行い、現にある社会が別様にもありうる可能性を構想していくことが求められる。そのため、社会学科では、これまでも配置していた科目をまとめ「社会構想に関する科目群」という新しいカテゴリーを設定し、「社会構想」という考え方を明確化した。こうした「社会構想」に関する科目群では、実社会で生起する現実的な諸問題を把握し、それを解決に導く方法が探究され、社会のオルタナティブなあり方を提言することを目指すことになる。学生に現実に根差した社会学的関心を喚起させることを目的として、一年次より履修できる選択科目を配置している。

#### (4)社会調査関連科目の充実化

社会学専攻では、情報処理科目の充実化を図り、情報について理解し、それを処理し、自らの社会学的研究に活用できる技能を身につけることをめざしている。このため、情報処理関連の様々な資格を取得する学生も多い。社会学科では、「社会調査関連科目」を新たに配置して、社会学的社会調査の方法を体系的に修得することをめざしている。社会学科では、情報処理の前段階であり、また社会学の研究には必須のデータ収集に関連する教育の充実化を目的として社会調査関連科目を体系的に配置することで、データ収集からデータ分析までを有機的に関連付けるカリキュラムを構想している。また社会学関連の資格と関連付けて、一般社団法人・社会調査協会が定める認定科目を配置し、「量

的「社会調査演習」「質的社会調査演習」と合わせて単位修得することによって、「社会調査士」資格を取得可能にする。

また、人間関係学科社会学専攻のときの科目に加え、社会学科ではさらに「伝統文化論」「宗教社会論」「マイグレーション・スタディーズ」「比較社会学」「社会問題の社会学」等の新規科目を設置するとともに、社会学の根幹をなす実証的研究のための調査法に関しては専任教員を配して、社会調査士資格取得に向けて注力しつつ、学生に対しては資格取得の選択肢のひとつとして提示できるようにする。

以上の教育課程の変更は、主専攻科目の充実化を図るものであり、他学部等に影響を与えることはなく、変更前と同等以上の内容を担保している。

#### (イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

社会学科の主専攻科目における教育方法は、以下のように五つに大別することが可能であるが、学修成果を上げるために、実践的にはこれらの方法を柔軟に組み合わせしていくことになる。

##### (1) 講義

講義を通じて、学生は、社会学の概念・理論・方法論などから社会を構成する諸領域に関する研究まで、多様な社会学の研究成果を知り、社会的なものの方と考え方をより深く学ぶことができる。

##### (2) 演習

演習においては、教員の指導のもとに、学生同士が意見を交換・議論を通じて、学生自身が主体的な学びによって、「専門講義科目」と関連づけて社会学に関する知識の修得をより深化していくことが可能となる。社会学科では、「演習科目」群の各演習科目には人数制限を設け、概ね 10～25 名程度の少人数編成とする。

また、一年次必修科目でありかつ専門導入科目である「社会学研究入門Ⅰ」「社会学研究入門Ⅱ」はそれぞれ 35 名程度までの 3 クラス編成、二年次必修科目の「社会学研究法」は 25 名程度の 4 クラス編成とし、適宜、グループディスカッションなど演習的要素を組み入れていく。なお、同一演習科目を、2 年次から 4 年次まで履修することが可能であるので、演習授業においては、学年の異なる学生同士が混合して学ぶ仕組みとすることで、多様な価値観を有する他の学生との共同作業や議論をとおして、共通の問題を解決するための協働性を養成することができる。

##### (3) 社会調査実習

社会調査による実証的研究を理解し、量的・質的調査法を修得することは、社会学を

学ぶ上で極めて重要である。社会調査に関する社会学的スキルは、学生が社会学的調査法を理解して自ら調査を設計し、実施した調査結果を分析して報告書を作成するというプロセスを経て修得するものである。社会学科では、一年次必修科目で「社会調査概論」「社会調査方法論」を導入科目として配置し、二年次から選択科目として社会調査関連科目を、三年次に社会調査実習に相当する「量的社会調査演習」「質的社会調査演習」を履修修得することで、学生が社会調査のスキルを身につけ、社会調査士資格(社会調査協会認定資格)を取得可能となるように配置している。社会学科では、社会調査に関連した科目は言うまでもなく、講義・演習・卒業研究にあっても、調査(計画・設計)における作業やコミュニケーション、体験的フィールドワークなど、社会調査実習の要素をある程度組み込むこととする。

#### (4)卒業研究

学生自らがテーマを発見し、課題を設定し、調査・資料収集を実施し、作成計画をもとに執筆する卒業研究は社会学教育においてとりわけ重要な位置を占める。学生にとって、社会学の学修を通して身につけた能力を活用して取り組む卒業研究は、個人的な関心を一般化・普遍化して自ら課題を設定し、根拠にもとづいて説明する力、他者を説得するために論理を組み立てる力を養うということから、大学の学士課程で社会学を学んだ集大成と言うべきものである。社会学科では、「卒業研究」(4単位)を「専門演習科目」群に四年次必修科目として配置する。「卒業研究」科目は、学生自らが指導教員を選択し、5～10名程度の12クラス編成で実施する。

#### (5)情報処理科目

社会学科では、社会調査など社会学を学ぶ上で必要とされる情報スキルを身につけるとともに、職業領域においても必要とされる情報処理リテラシーを修得するための科目を「社会学情報処理科目」群として体系的に配置している。Covid-19 Pandemicの経験に照らせば、大学における学びや職業教育にとどまらず、人間の社会生活全般に至るまで情報処理スキルが急速に求められるようになってきている。「情報処理科目」の教育は、「社会調査実習」とは異なり、情報機器が備わった環境で行われることを想定している。そのため「社会学情報処理」科目群に配置された科目は、必修科目・選択科目ともに35名程度までのクラスで実施する。

以上の教育方法及び履修指導方法は、社会学科の主専攻科目における変更であるため、他学部等に影響を与えることはなく、変更前と同等以上の内容を担保している。

#### (ウ) 教員組織の変更内容

社会学科になることにより専任教員は、社会学専攻時の7名から12名へと増員する。

このことにより、講義科目・演習科目を含めて社会学専門科目の領域の多様化を図ることができ、さらに現在拡大しつつある社会学科の学生の問題関心領域への対応がますます充実することになる。新たに増員する教員の担当科目は、「伝統文化論」「宗教社会論」「マイグレーション・スタディーズ」「比較社会論」「社会問題の社会学」「労働社会学」「社会調査士関連科目」「社会学文献講読演習」「社会学英書講読演習」等であり、社会学のなかでも近年社会的な注目を集める分野が数多く含まれている。社会学専攻時の定員 60 名から社会学科の定員 95 名になることによる問題関心の多様化に対しても、平均 8 名の少人数指導により学生の期待に応えられるカリキュラムを構成することが可能となる。

社会学に限らず一般的な教育方法として、演習等でも PBL (プロジェクト・ベースド・ラーニング) 教授法が浸透してきており、そうした方向性は意味あるものであると考えられる。他方でそうした方法を用いることにより、演習科目において、文献をじっくり読解するという時間の確保が難しくなっていることは否めない。そうした状況において、「社会学文献講読演習」では日本語文献をじっくり講読する、そして「社会学英書講読演習」では英語文献をじっくり講読することを目指す授業となる。こうした授業は、「グローバルに考え、地域で活動する」人材の養成に向けて、社会学を基礎とした言語感覚を涵養するものとなる。

#### (エ) 大学全体の施設・設備の変更内容

現在、平成 29 年度に策定した校舎等建替計画に基づき、令和 7 年度竣工予定の新体育館建設事業を進めている。新体育館 (10,525.0 m<sup>2</sup>) には、メインアリーナ、サブアリーナに加え、スカッシュコートやボルダリングスペースを備えるトレーニングジムや各種学生生活動で利用できる会議室も設置し、新たな学生生活動拠点とする。

教室を設置する建物は、1 号館 (2,253.5 m<sup>2</sup>)、2 号館 (6,101.7 m<sup>2</sup>)、3 号館 (7,064.3 m<sup>2</sup>)、5 号館 (5,303.2 m<sup>2</sup>)、6 号館 (4,754.9 m<sup>2</sup>)、7 号館 (3,822.9 m<sup>2</sup>)、協創館 (5,823.4 m<sup>2</sup>)、9 号館 (4,684.9 m<sup>2</sup>) であり、これらの建物に講義・ゼミナール用教室 118 教室を備えている。このうち、6 号館 3、4 階には、情報演習室 14 室 (1,258.4 m<sup>2</sup>) を配置し、総数 419 台のパソコンを備えている。これら講義・ゼミナール用教室 118 教室の現在の稼働率状況は 63.0%、このうち情報演習室の稼働率状況は 54.6% であり、余裕のある教室数を確保している。

以上により、定員変更後も講義・ゼミナール用教室は十分確保できており、これまでと同等以上の環境を担保している。

学則の変更の趣旨等を記載した書類

添付資料 目次

資料1 ……社会学科主専攻科目・学年カリキュラム図

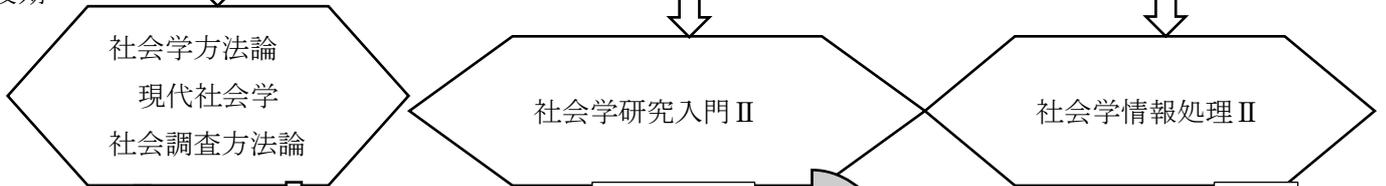
資料2 ……教育課程等の概要（人文学部社会学科）

社会学専攻科目・学年カリキュラム図

1年次  
前期



後期



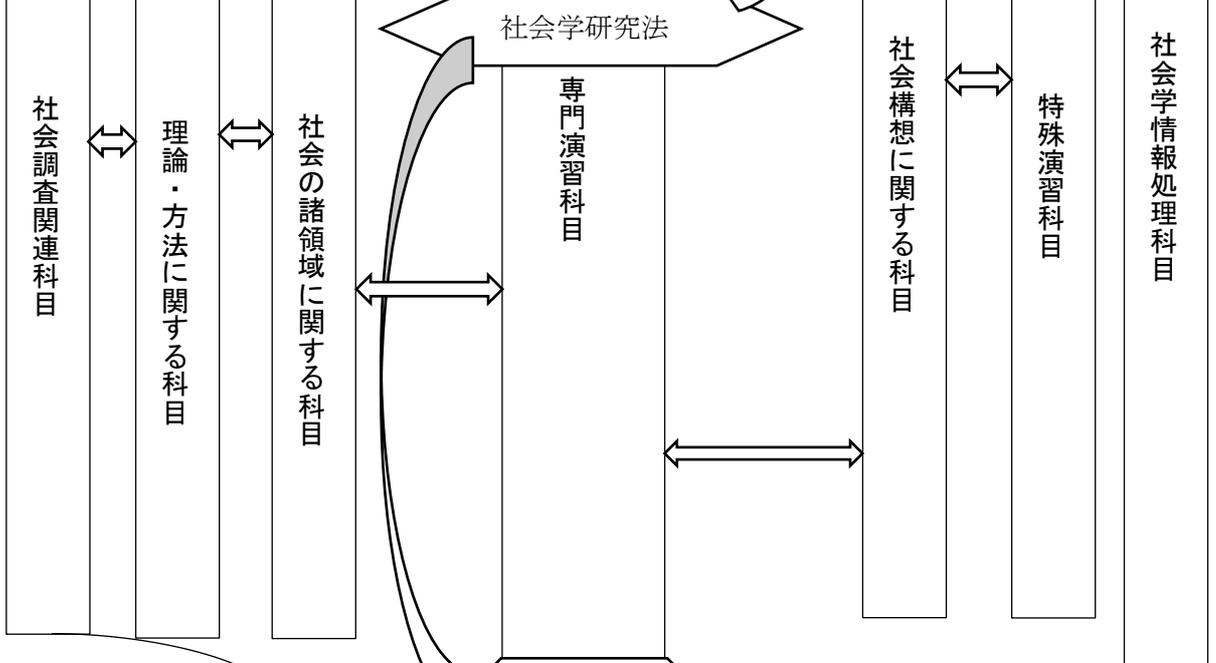
2年次

前期



3年次

後期



4年次

卒業研究

教育課程等の概要															
(人文学部社会科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目	地域理解	広島修道大学と広島	1①		1		○							兼3	オムニバス
		広島と平和	1・2②		1		○							兼1	
		広島防災と法務	2・3後		2		○							兼1	
		小計(3科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼5	—
全学共通科目	国際理解科目	日本語Ⅰ	1・2前		1				○						兼1
		日本語Ⅱ	1・2後		1				○						兼1
		日本語Ⅲ	1・2前		1				○						兼1
		日本語Ⅳ	1・2後		1				○						兼1
		日本語Ⅴ	1・2前		1				○						兼1
		日本語Ⅵ	1・2後		1				○						兼1
		日本語Ⅶ	1・2前		1				○						兼1
		日本語Ⅷ	1・2後		1				○						兼1
		アカデミック日本語	1・2前		2			○							兼1
		ビジネス日本語	1・2後		2			○							兼1
		漢字入門Ⅰ	1・2前		1					○					兼1
		漢字入門Ⅱ	1・2後		1					○					兼1
		留学生アカデミックスキル	1・2前		2			○							兼1
		留学生キャリア形成	1・2後		2			○							兼1
		留学スタートアップ	1・2①・③		1			○							兼1
		留学フォローアップ	1・2②・④		1			○							兼1
		中長期スタディ・アブロード(入門)	1・2前		2			○							兼1
		中長期スタディ・アブロード(事前)	2・3前・後		2			○							兼1
		中長期スタディ・アブロード(事後)	2・3①・③		1			○							兼1
		外国語としての日本語(日本語教育)	1・2前		2			○							兼1
		外国語としての日本語(多文化共生)	1・2後		2			○							兼1
		Multicultural Project (Contemporary Issues in Japanese Society)	1・2前		2			○							兼1
		Multicultural Project (Images of Japan in Western Cinema)	1・2後		2			○							兼1
		Multicultural Project (Popular Music in Japanese Society I)	1・2前		2			○							兼1
		Multicultural Project (Popular Music in Japanese Society II)	1・2後		2			○							兼1
		多文化交流プロジェクト(多文化理解)	1・2前		2			○							兼1
		多文化交流プロジェクト(地方の魅力)	1・2前		2			○							兼1
		多文化交流プロジェクト(広島再発見)	1・2後		2			○							兼1
		多文化交流プロジェクト(現代の社会)	1・2後		2			○							兼1
		多文化交流プロジェクト(言語と文化)	1・2後		2			○							兼1
		言語文化特殊講義Ⅰ(ドイツ語)	2・3前		2			○							兼1
		言語文化特殊講義Ⅱ(ドイツ語)	2・3後		2			○							兼1
		言語文化特殊講義Ⅰ(フランス語)	2・3前		2			○							兼1
		言語文化特殊講義Ⅱ(フランス語)	2・3後		2			○							兼1
		言語文化特殊講義Ⅰ(スペイン語)	2・3前		2			○							兼1
		言語文化特殊講義Ⅱ(スペイン語)	2・3後		2			○							兼1
		言語文化特殊講義Ⅰ(中国語)	2・3前		2			○							兼1
		言語文化特殊講義Ⅱ(中国語)	2・3後		2			○							兼1
		言語文化特殊講義Ⅰ(韓国・朝鮮語)	2・3前		2			○							兼1
		言語文化特殊講義Ⅱ(韓国・朝鮮語)	2・3後		2			○							兼1
		ことばと社会	1・2前		2			○							兼1
		英語Ⅰ(リーディング・ライティング)	1前		1					○					兼1
		英語Ⅱ(リーディング・ライティング)	1後		1					○					兼1
英語Ⅲ(リスニング・スピーキング)	1前		1					○					兼1		
英語Ⅳ(リスニング・スピーキング)	1後		1					○					兼1		
アクティブ・イングリッシュⅠ	1・2前		1					○					兼1		
アクティブ・イングリッシュⅡ	1・2後		1					○					兼1		
英語ライティングⅠ	1・2前		2			○							兼1		
英語ライティングⅡ	1・2後		2			○							兼1		
英語ライティングⅢ	1・2前		2			○							兼1		
英語ライティングⅣ	1・2後		2			○							兼1		
英語聴解Ⅰ	1・2前		2			○							兼1		
英語聴解Ⅱ	1・2後		2			○							兼1		

教育課程等の概要														
(人文学部社会学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	英語聴解Ⅲ	1・2前		2		○								兼1
	英語聴解Ⅳ	1・2後		2		○								兼1
	英語読解Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
	英語読解Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
	英語読解Ⅲ	1・2前		2		○								兼1
	英語読解Ⅳ	1・2後		2		○								兼1
	アカデミック・リーディングⅠ	1・2前		2		○								兼1
	アカデミック・リーディングⅡ	1・2後		2		○								兼1
	英語コミュニケーション入門Ⅰ	1・2前		1				○						兼1
	英語コミュニケーション入門Ⅱ	1・2後		1				○						兼1
	英語コミュニケーションⅠ	1・2前		2		○								兼1
	英語コミュニケーションⅡ	1・2後		2		○								兼1
	英語コミュニケーションⅢ	1・2前		2		○								兼1
	英語コミュニケーションⅣ	1・2後		2		○								兼1
	英語コミュニケーションⅤ	1・2前		2		○								兼1
	英語コミュニケーションⅥ	1・2後		2		○								兼1
	英語文法入門Ⅰ	1・2前		1				○						兼1
	英語文法入門Ⅱ	1・2後		1				○						兼1
	英語語法Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
	英語語法Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
	英語語法Ⅲ	1・2前		2		○								兼1
	英語語法Ⅳ	1・2後		2		○								兼1
	資格英語入門Ⅰ	1・2前		1				○						兼1
	資格英語入門Ⅱ	1・2後		1				○						兼1
	資格英語Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
	資格英語Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
	資格英語Ⅲ	1・2前		2		○								兼1
	資格英語Ⅳ	1・2後		2		○								兼1
	資格英語Ⅴ	1・2前		2		○								兼1
	資格英語Ⅵ	1・2後		2		○								兼1
	英語プレゼンテーションⅠ	1・2前		2		○								兼1
	英語プレゼンテーションⅡ	1・2後		2		○								兼1
	ドイツ語Ⅰ	1前		1				○						兼1
	ドイツ語Ⅱ	1後		1				○						兼1
	ドイツ語Ⅲ	1前		1				○						兼1
	ドイツ語Ⅳ	1後		1				○						兼1
	フランス語Ⅰ	1前		1				○						兼1
	フランス語Ⅱ	1後		1				○						兼1
	フランス語Ⅲ	1前		1				○						兼1
	フランス語Ⅳ	1後		1				○						兼1
	スペイン語Ⅰ	1前		1				○						兼1
	スペイン語Ⅱ	1後		1				○						兼1
	スペイン語Ⅲ	1前		1				○						兼1
	スペイン語Ⅳ	1後		1				○						兼1
	中国語Ⅰ	1前		1				○						兼2
	中国語Ⅱ	1後		1				○						兼1
	中国語Ⅲ	1前		1				○						兼1
	中国語Ⅳ	1後		1				○						兼1
	韓国・朝鮮語Ⅰ	1前		1				○						兼2
	韓国・朝鮮語Ⅱ	1後		1				○						兼2
	韓国・朝鮮語Ⅲ	1前		1				○						兼2
	韓国・朝鮮語Ⅳ	1後		1				○						兼2
	中級外国語Ⅰ(ドイツ語)	2・3前		2		○								兼1
	中級外国語Ⅱ(ドイツ語)	2・3後		2		○								兼1
	中級外国語Ⅰ(フランス語)	2・3前		2		○								兼1
	中級外国語Ⅱ(フランス語)	2・3後		2		○								兼1
	中級外国語Ⅰ(スペイン語)	2・3前		2		○								兼1

教育課程等の概要																
(人文学部社会科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	中級外国語Ⅱ(スペイン語)	2・3後		2		○								兼1		
	中級外国語Ⅰ(中国語)	2・3前		2		○								兼1		
	中級外国語Ⅱ(中国語)	2・3後		2		○								兼1		
	中級外国語Ⅰ(韓国・朝鮮語)	2・3前		2		○								兼1		
	中級外国語Ⅱ(韓国・朝鮮語)	2・3後		2		○								兼1		
	上級外国語Ⅰ(ドイツ語)	2・3前		2		○								兼1		
	上級外国語Ⅱ(ドイツ語)	2・3後		2		○								兼1		
	上級外国語Ⅰ(フランス語)	2・3前		2		○								兼1		
	上級外国語Ⅱ(フランス語)	2・3後		2		○								兼1		
	上級外国語Ⅰ(スペイン語)	2・3前		2		○								兼1		
	上級外国語Ⅱ(スペイン語)	2・3後		2		○								兼1		
	上級外国語Ⅰ(中国語)	2・3前		2		○								兼1		
	上級外国語Ⅱ(中国語)	2・3後		2		○								兼1		
	上級外国語Ⅰ(韓国・朝鮮語)	2・3前		2		○								兼1		
	上級外国語Ⅱ(韓国・朝鮮語)	2・3後		2		○								兼1		
	海外研修A	1・2・3・4		1		※								兼1	講義及び実習	
	海外研修B	1・2・3・4		2		※								兼1	講義及び実習	
	海外研修C	1・2・3・4		3		※								兼1	講義及び実習	
	海外研修D	1・2・3・4		4		※								兼1	講義及び実習	
	海外研修E	1・2・3・4		5		※								兼1	講義及び実習	
	小計(130科目)	—	0	220	0	—				0	0	0	0	0	兼38	—
一般教養科目	哲学	1・2前		2		○								兼1		
	倫理学	1・2後		2		○								兼1		
	美学	1・2前・後		2		○								兼1		
	芸術学	1・2前・後		2		○								兼1		
	西洋文学	1・2前・後		2		○								兼2		
	日本語学	1・2前		2		○								兼1		
	心理学	1・2前・後		2		○								兼2		
	文化論	1・2前		2		○								兼1		
	文化人類学	1・2前		2		○								兼1		
	西洋の美術	1・2前・後		2		○								兼1		
	日本近世文学	1・2後		2		○								兼1		
	西洋文化論	1・2④		2		○								兼1		
	人間と生命の倫理学	1・2前		2		○								兼1		
	人生の探究としての倫理学	1・2前・後		2		○								兼1		
	愛の倫理的考察	1・2前		2		○								兼1		
	現代日本語の特質	1・2後		2		○								兼1		
	ドイツ文学	1・2後		2		○								兼1		
	江戸時代の衣服	1・2前		2		○								兼1		
	日本語と英語	1・2前		2		○								兼1		
	科学史	1・2後		2		○								兼1		
	日本文学	2・3前		2		○								兼1		
	西洋の図像学	2・3前・後		2		○								兼1		
	キリスト教倫理	2・3後		2		○								兼1		
	芸術文化学	2・3前		2		○								兼1		
	江戸時代の服飾	2・3後		2		○								兼1		
	日本史	1・2前		2		○								兼2		
	西洋史	1・2前		2		○								兼1		
	地理学	1・2前		2		○								兼1		
	社会学	1・2前		2		○				1						
	法学	1・2前		2		○								兼1		
	政治学	1・2①		2		○								兼1		
	経済学	1・2前		2		○								兼1		
	情報社会論	1・2前		2		○								兼1		
	日本近代史	1・2後		2		○								兼1		
	日本近現代史	1・2後		2		○								兼1		
	西洋中近世史	1・2後		2		○								兼1		

教育課程等の概要																
(人文学部社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	生活の中の地理学	1・2後		2		○								兼1		
	社会学のものの見方と考え方	1・2後		2		○			1							
	現代経済学	1・2後		2		○								兼1		
	情報環境論	1・2後		2		○								兼1		
	政党と選挙の政治学	1・2④		2		○								兼1		
	歴史と社会	1・2前		2		○								兼1		
	歴史人類学	1・2②		2		○								兼1		
	中国の歴史と社会	1・2前		2		○								兼1		
	近代日本と戦争	1・2④		2		○								兼1		
	資産運用の基礎	1・2前		2		○								兼1		
	地方行政と法	1・2前		2		○								兼1		
	事例で学ぶ民法	1・2前		2		○								兼1		
	現代社会と企業法	1・2前		2		○								兼1		
	国際社会と法	1・2前		2		○								兼1		
	現代社会と刑事法	1・2前		2		○								兼1		
	メディア論	2・3前		2		○								兼1		
	社会保障論	2・3後		2		○								兼1		
	地政学	2・3②		2		○								兼1		
	化学	1・2前		2		○								兼1		
	生物学	1・2後		2		○								兼1		
	環境科学	1・2後		2		○								兼1		
	数学	1・2前		2		○								兼1		
	応用数学	1・2後		2		○								兼1		
	遺伝学の基礎	1・2後		2		○								兼1		
	公衆衛生学	1・2後		2		○								兼1		
	宇宙と物質と生命の科学	1・2前		2		○								兼1		
	自然科学と技術入門	1・2後		2		○								兼1		
	動物の自然史と分類	2・3前		2		○								兼1		
	小計 (64科目)	—	0	128	0	—			1	0	0	0	0	兼39	—	
スポーツ・健康科目	栄養と健康	1・2前		2		○								兼1	集中	
	健康科学論	1・2前		2		○								兼2		
	運動科学論	1・2前		2		○								兼1		
	健康科学演習	1・2後		2			○							兼1		
	運動科学演習	1・2後		2			○							兼1		
	健康スポーツ実習 (Shudo AP)	1・2後		1				○						兼1		
	健康スポーツ実習 (アダプテッド・スポーツ)	1・2後		1				○						兼2		
	健康スポーツ実習 (バドミントン)	1・2前		1				○						兼1		
	健康スポーツ実習 (バスケットボール)	1・2前		1				○						兼1		
	健康スポーツ実習 (ゴルフ)	1・2前		1				○						兼1		
	健康スポーツ実習 (卓球)	1・2前		1				○						兼1		
	健康スポーツ実習 (サッカー)	1・2後		1				○						兼1		
	健康スポーツ実習 (ソフトボール)	1・2前		1				○						兼1		
	健康スポーツ実習 (ソフトバレーボール)	1・2前		1				○						兼1		
	健康スポーツ実習 (テニス)	1・2前		1				○						兼1		
	運動スポーツ実習 (アクアティックススポーツ)	1・2後		1				○						兼1		
	運動スポーツ実習 (バドミントン)	1・2前		1				○						兼2		
	運動スポーツ実習 (バスケットボール)	1・2前		1				○						兼2		
	運動スポーツ実習 (フットサル)	1・2前		1				○						兼1		
	運動スポーツ実習 (ゴルフ)	1・2後		1				○						兼1		
	運動スポーツ実習 (ニュースポーツ)	1・2前		1				○						兼1		
	運動スポーツ実習 (卓球)	1・2前		1				○						兼1		
	運動スポーツ実習 (サッカー)	1・2前		1				○						兼1		
	運動スポーツ実習 (ソフトボール)	1・2後		1				○						兼1		
	運動スポーツ実習 (スポーツフィッシング)	1・2後		1				○						兼2		集中
	運動スポーツ実習 (テニス)	1・2前		1				○						兼1		集中
野外運動実習 I (キャンプ)	1・2前		1				○						兼1	集中		
野外運動実習 I (スキー)	1・2後		1				○						兼2	集中		

教育課程等の概要																
(人文学部社会科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
主専攻科目	野外運動実習Ⅱ (キャンプ発展)	1・2前		1				○						兼1	集中 集中	
		1・2後		1				○						兼1		
	小計 (30科目)		—	0	35	0	—			0	0	0	0	0	兼18	—
	デ ザ イ リ ア 科 目	大学生活とキャリア	1③		1		○								兼1	
		インターンシップ入門	1④		1		○								兼1	
		キャリアビジョンとキャリア形成	2・3前		2		○								兼1	
		広島の事業承継を学ぶ	2・3後		2		○								兼1	
	小計 (4科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—
	ス テ ィ タ サイ エン	データサイエンス概論	1後		2		○								兼1	
		情報処理入門	1前		2		○								兼1	
		統計学	1・2前		2		○								兼1	
		情報化社会と人間	1・2前		2		○								兼2	
		情報と知能	1・2前		2		○								兼1	
	小計 (5科目)		—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼5	—
	人 文 学 部 総 合 科 目	現代社会学	1・2後		2		○				1					集中 集中
差別問題論		1前		2		○								兼1		
ヒロシマ文化論Ⅰ		1・2前		2		○								兼1		
ヒロシマ文化論Ⅱ		1・2後		2		○								兼1		
ジェンダー論		2・3前		2		○								兼1		
女の人間学		2・3後		2		○								兼1		
比較社会学		1・2前		2		○								兼1		
共生社会学		1・2後		2		○								兼1		
ボランティア論		1・2後		2		○								兼1		
社会文化体験演習		2・3通		2					○	1				兼4		
海外体験演習		2・3通		2					○					兼1		
Media EnglishⅠ		2・3前		2		○								兼1		
Media EnglishⅡ		2・3後		2		○								兼1		
Business EnglishⅠ		2・3前		2		○								兼3		
Business EnglishⅡ		2・3後		2		○								兼3		
環境文学論		1・2前		2		○								兼1		
物語と歴史		2・3前		2		○								兼1		
教育文化論		2・3前		2		○								兼1		
芸術文化論		1・2後		2		○								兼2	オムニバス・共同(一部)	
社会の中の言語		3・4後		2		○								兼1		
日本文化史Ⅰ		1・2前		2		○								兼1		
日本文化史Ⅱ		1・2後		2		○								兼1		
日本文化論 (浮世絵)		1・2前		2		○								兼1		
日本文化論 (和紙)		1・2後		2		○								兼1		
日本文学演習Ⅰ (崩し字解説・平仮名)		1・2前		2				○						兼1		
日本文学演習Ⅱ (崩し字解説・古典文学)		1・2後		2				○						兼1		
日本史演習Ⅰ (崩し字解説・漢字)		1・2前		2				○						兼1		
日本史演習Ⅱ (崩し字解説・古文書)		1・2後		2				○						兼1		
日本古典文学論		1・2後		2		○								兼1		
西洋文化史		2・3後		2		○								兼1		
西洋文化史演習		2・3後		2				○						兼1		
小計 (31科目)		—	0	62	0	—			2	0	0	0	0	兼20	—	

教育課程等の概要															
(人文学部社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
社会学専門科目	専門講義科目 理論・方法に関する科目	社会学基礎講座	1①	1			○			1					隔年
		社会学研究入門Ⅰ	1前	2			○			2	1				
		社会学研究入門Ⅱ	1後	2			○			2	1				
		社会学方法論	1後	2			○			1					
		社会学概論	1前	2			○			1					
		社会学理論	2前	2			○			1					
		応用社会学	2・3・4後		2			○		1					
		コミュニケーション論	2・3・4前		2			○		1					
		社会意識論	2・3・4前		2			○		1					
		感情社会学	2・3・4前		2			○		1					
		比較社会学	2・3・4前		2			○			1				
		社会学研究法	2後	2				○		2	2				
小計(12科目)		—	13	10	0	—			7	3	0	0	0	兼	—
社会の諸領域に関する科目	アニメ社会学	2・3・4後		2			○		1					隔年	
	クールジャパン現象研究	2・3・4後		2			○		1					隔年	
	犯罪社会学	2・3・4後		2			○		1						
	エリア・スタディーズ	2・3・4前		2			○		1						
	ボーダー・スタディーズ	2・3・4後		2			○		1						
	国際社会学Ⅰ	2・3・4前		2			○		1						
	国際社会学Ⅱ	2・3・4後		2			○		1						
	現代社会論	2・3・4前		2			○		1						
	産業社会学	2・3・4後		2			○		1					隔年	
	労働社会学	2・3・4後		2			○			1					
	カルチュラル・スタディーズ	2・3・4後		2			○		1						
	文化社会学	2・3・4前		2			○		1						
	消費社会論	2・3・4後		2			○		1					隔年	
	感情労働論	2・3・4後		2			○		1					隔年	
	親密性の社会学	2・3・4前		2			○		1					隔年	
	性現象論	2・3・4前		2			○		1					隔年	
	クィア・スタディーズ	2・3・4後		2			○		1						
	都市社会学	2・3・4前		2			○						兼1		
	地域社会学	2・3・4後		2			○						兼1		
	サブカルチャーの社会学	2・3・4前		2			○						兼1		
ポップカルチャーの社会学	2・3・4後		2			○						兼1			
宗教社会論	2・3・4前		2			○			1						
伝統文化論	2・3・4後		2			○			1						
マイグレーション・スタディーズ	2・3・4後		2			○			1						
社会問題の社会学	2・3・4前		2			○			1						
表象文化論	2・3・4後		2			○						兼1			
音楽社会学	2・3・4前		2			○						兼1			
現代社会学特殊講義	2・3・4前		2			○						兼1	集中		
社会学特殊講義	2・3・4後		2			○						兼1	集中		
小計(29科目)		—	0	58	0	—			7	3	0	0	0	兼5	—
社会構想に関する科目	マスメディア論Ⅰ	1・2前		2			○							兼1	
	マスメディア論Ⅱ	1・2後		2			○							兼1	
	ジャーナリズム論Ⅰ	1・2前		2			○							兼1	
	ジャーナリズム論Ⅱ	1・2後		2			○							兼1	
	社会安全政策論	1・2前		2			○		2					兼15	オムニバス・共同
社会構想と公共政策	1・2・3・4後		2			○							兼4	オムニバス・集中	
小計(6科目)		—	0	12	0	—			2	0	0	0	0	兼21	—
社会調査関連科目	社会調査概論	1前	2				○		1						
	社会調査方法論	1後	2				○		1						
	社会調査論Ⅰ(資料・データ分析)	2前		2			○		1						
	社会調査論Ⅱ(統計学)	2後		2			○		1						
	量的社会調査法(多変量解析)	2前		2			○		1						
	質的社会調査法	2後		2			○			2					
小計(6科目)		—	4	8	0	—			1	2				兼	—

教育課程等の概要															
(人文学部社会科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
演習科目 専門演習科目	コミュニケーション論演習 (メディアと文化)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	コミュニケーション論演習 (メディアと表現)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	コミュニケーション論演習 (ネットメディアと文化)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	コミュニケーション論演習 (ネットメディアと表現)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	アニメ社会学演習 (コンテンツと文化)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	アニメ社会学演習 (ネットコンテンツと文化)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	クールジャパン現象研究演習 (コンテンツと表現)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	クールジャパン現象研究演習 (ネットコンテンツと表現)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	社会意識論演習 (表象文化とジェンダー)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	社会意識論演習 (文化とアイデンティティ)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	社会意識論演習 (法制度とジェンダー)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	社会意識論演習 (仕事と生活の調和)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	犯罪社会学演習 (社会的排除と不平等)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	犯罪社会学演習 (管理される性と生)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	犯罪社会学演習 (逸脱の医療化)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	犯罪社会学演習 (防犯対策とコミュニティ)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	国際社会学演習 (グローバリゼーションと社会変動)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	国際社会学演習 (西欧とアジア)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	国際社会学演習 (非西欧と脱西欧化)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	国際社会学演習 (国際システムと国民国家)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	エリア・スタディーズ演習 (グローバル化と東アジア共同体)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	エリア・スタディーズ演習 (移住/貿易/観光)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	ボーダー・スタディーズ演習 (日本の中のボーダー)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	ボーダー・スタディーズ演習 (アジアの内部/アジアの外部)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	現代社会論演習 (イデオロギーとしての公正・安全・環境保護)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	現代社会論演習 (再帰的近代と社会不安)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	現代社会論演習 (社会構造の変動と価値変容)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	現代社会論演習 (グローバル化と生活世界の変容)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	カルチュラル・スタディーズ演習 (日常生活における意味と行動)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	カルチュラル・スタディーズ演習 (イデオロギーと人種)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	カルチュラル・スタディーズ演習 (階級とジェンダー)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	カルチュラル・スタディーズ演習 (サブカルチャーと権力)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	文化社会学演習 (自由と差別)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	文化社会学演習 (人種差別に抵抗する音楽)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	文化社会学演習 (ブラック・ミュージックと抵抗文化)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	文化社会学演習 (無意識の植民地主義)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	応用社会学演習 (仕事におけるメンタルヘルス)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	応用社会学演習 (心理学化/医療化する社会)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	応用社会学演習 (医療化と脱医療化)	2・3・4前		2				○		1					隔年
	応用社会学演習 (病気と健康の構築)	2・3・4後		2				○		1					隔年
	労働社会学演習 (雇用の流動化と格差社会)	2・3・4前		2				○			1				隔年
	労働社会学演習 (仕事とジェンダー)	2・3・4後		2				○			1				隔年
	労働社会学演習 (仕事をめぐるジェネレーションギャップ)	2・3・4前		2				○			1				隔年
	労働社会学演習 (新しい労働運動)	2・3・4後		2				○			1				隔年
	感情社会学演習 (ジェンダーとアイデンティティ)	2・3・4前		2				○		1					隔年
感情社会学演習 (模倣と変身)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
感情労働論演習 (外見・装飾の演出)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
感情労働論演習 (対人労働のスキル)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
親密性の社会学演習 (ホームの社会学)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
親密性の社会学演習 (家族と表象をめぐるジェンダー)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
親密性の社会学演習 (親密性とジェンダー)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
親密性の社会学演習 (親密性とセクシュアリティ)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
性現象論演習 (ジェンダーと文化)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
性現象論演習 (セクシュアリティと文化)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
クィア・スタディーズ演習 (クィア理論という方法)	2・3・4後		2				○		1					隔年	

教育課程等の概要																
(人文学部社会科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	クイア・スタディーズ演習 (クイアをめぐる視覚文化)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
	産業社会学演習 (産業構造の転換と市場経済の変容)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
	産業社会学演習 (グローバル化とポスト産業社会)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
	消費社会論演習 (モード/ファッション/トレンド/ブーム)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
	消費社会論演習 (ハビトゥス/身体化/ディスタンクシオン)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
	宗教社会論演習 (日本の祭り・行事)	2・3・4前		2				○			1				隔年	
	宗教社会論演習 (パワースポットとツーリズム)	2・3・4後		2				○			1				隔年	
	宗教社会論演習 (神話・伝説・物語の世界)	2・3・4前		2				○			1				隔年	
	宗教社会論演習 (キリスト教と文化)	2・3・4後		2				○			1				隔年	
	伝統文化論演習 (歴史・民俗とまちづくり)	2・3・4前		2				○			1				隔年	
	伝統文化論演習 (民俗学の視点と方法)	2・3・4後		2				○			1				隔年	
	伝統文化論演習 (都市の民俗学)	2・3・4前		2				○			1				隔年	
	伝統文化論演習 (地域文化とレジリエンス)	2・3・4後		2				○			1				隔年	
	マイグレーション・スタディーズ演習 (移民をめぐる政治と経済)	2・3・4前		2				○			1				隔年	
	マイグレーション・スタディーズ演習 (移民政策と社会統合)	2・3・4後		2				○			1				隔年	
	マイグレーション・スタディーズ演習 (広島と移民の歴史)	2・3・4前		2				○			1				隔年	
	マイグレーション・スタディーズ演習 (国内移住とライフコース)	2・3・4後		2				○			1				隔年	
	社会問題の社会学演習 (個人化社会と自己責任論)	2・3・4前		2				○			1				隔年	
	社会問題の社会学演習 (社会的排除/包摂)	2・3・4後		2				○			1				隔年	
	社会問題の社会学演習 (疎外と自己アイデンティティ)	2・3・4前		2				○			1				隔年	
	社会問題の社会学演習 (デジタル化によって構成されていく現実)	2・3・4後		2				○			1				隔年	
	比較社会学演習 (多文化社会の理論)	2・3・4前		2				○			1				隔年	
	比較社会学演習 (人種と民族)	2・3・4後		2				○			1				隔年	
	比較社会学演習 (歴史と記憶)	2・3・4前		2				○			1				隔年	
	比較社会学演習 (多文化社会としての日本)	2・3・4後		2				○			1				隔年	
	量的社会調査演習	3通		4				○		1						
	質的社会調査演習	3通		4				○			2					
	社会学文献講読演習Ⅰ	3・4①		2				○					1			
	社会学文献講読演習Ⅱ	3・4②		2				○					1			
	社会学文献講読演習Ⅲ	3・4③		2				○					1			
	社会学文献講読演習Ⅳ	3・4④		2				○					1			
	社会学英書講読演習Ⅰ	3・4①		2				○					1			
	社会学英書講読演習Ⅱ	3・4②		2				○					1			
	社会学英書講読演習Ⅲ	3・4③		2				○					1			
	社会学英書講読演習Ⅳ	3・4④		2				○					1			
	社会学特論演習 (外国人と日本社会)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
	社会学特論演習 (現代日本社会におけるエスニシティ)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
	社会学特論演習 (ネットワーク分析の理論と方法)	2・3・4前		2				○		1					隔年	
	社会学特論演習 (社会的格差と貧困)	2・3・4後		2				○		1					隔年	
	卒業研究	4通	4					○		8	3		1			
	小計 (95科目)	—	4	192	0			—		8	3	0	1	0	兼0	—
特殊演習科目	応用社会学特殊演習	2・3前		2				○							兼1	
	マスメディア論特殊演習	2・3前		2				○							兼1	
	ジャーナリズム論特殊演習	2・3後		2				○							兼1	
	社会安全政策論特殊演習	2・3後		2				○		2					兼1	共同(一部)
	小計 (4科目)	—	0	8	0			—		2	0	0	0	0	兼3	—
社会学情報処理科目	情報リテラシー	1前	2					○							兼4	
	社会学情報処理Ⅰ	1前	2					○							兼3	
	社会学情報処理Ⅱ	1後	2					○							兼3	共同
	社会学情報処理Ⅲ	2・3前		2				○							兼1	
	社会学情報処理Ⅳ	2・3後		2				○							兼1	
	社会学情報処理Ⅴ	2・3後		2				○							兼1	
	社会学情報処理特殊講義Ⅰ	2・3前		2				○							兼1	
	社会学情報処理特殊講義Ⅱ	2・3後		2				○							兼1	
社会学情報処理特殊講義Ⅲ	2・3前		2				○							兼2	共同・集中	

教育課程等の概要																
(人文学部社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	社会学情報処理特殊講義Ⅳ	2・3前		2		○								兼2	共同・集中	
	社会学情報処理特殊講義Ⅴ	2・3後		2		○								兼1		
	Web調査論	2・3前		2		○								兼1		
	社会学情報処理特殊演習Ⅰ	2・3前		2			○							兼1		
	社会学情報処理特殊演習Ⅱ	2・3後		2			○							兼1		
	小計（14科目）	—	6	22	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—	
資格課程に関する科目	教育原理	1前			2	○									兼1	オムニバス
	教職入門	1前			2	○									兼1	
	教育心理学	2前			2	○									兼1	
	教育制度・教育課程論	1後			2	○									兼1	
	特別なニーズ教育の基礎と方法	1後			2	○									兼1	
	道徳教育論	2後			2	○									兼2	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2後			2	○									兼1	
	教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	2後			2	○									兼1	
	生徒・進路指導論	2後			2	○									兼1	
	教育相談	2後			2	○									兼1	
	中等教育実習事前事後指導	3・4通			1	○									兼2	
	中等教育実習Ⅰ	3・4通			2			○							兼1	
	中等教育実習Ⅱ	4通			2			○							兼1	
	教職実践演習（中・高）	4後			2		○								兼1	
	人権教育論	1後			2	○									兼1	
	社会福祉論	2前			2	○									兼1	
	特別支援教育概論	2後			2	○									兼1	
	中等社会科教育法（地理歴史分野）	3後			2	○									兼1	
	社会科・地理歴史科教育法	3後			2	○									兼2	
	中等社会科教育法（公民分野）	3前			2	○									兼2	
社会科・公民科教育法	3後			2	○									兼1		
小計（21科目）	—	0	0	41	—			0	0	0	0	0	0	兼16	—	
合計（454科目）		—	27	775	41	—			8	3	0	1	0	兼158		
学位又は称号	学士（社会学）		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
全学共通科目20単位以上（地域理解科目1単位以上、国際理解科目4単位以上、一般教養科目4単位以上、キャリアデザイン科目1単位以上を含む）、主専攻科目84単位以上（人文学部総合科目12単位以上、専門講義科目40単位以上及び専門演習科目12単位以上並びに社会学情報処理科目6単位以上を含む社会学専門科目を64単位以上）を修得し、124単位以上を修得すること。 履修制限単位数：前期または後期24単位（ただし4年次に限り28単位）、年間44単位						1学年の学期区分		2期								
						1学期の授業期間		15週								
						1時限の授業時間		90分								

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。